

【日韓関係・社会問題】

対話のために

「帝国の慰安婦」という問いをひらく

四六判 336頁 本体1900円(税別)



朴裕河著『帝国の慰安婦』は、「慰安婦」認識において、様々な議論を巻き起こしている。なぜ、これほど論争的な書となってしまったのか。その評価は正しいのか。

不毛な対立と論争をこれ以上続けないために、『帝国の慰安婦』が問いかけた課題を、各分野の論者たちが、自らの専門領域に引き寄せて考える。批判の応酬を乗り越えたいという思いが可能にした、力作論集。

編著者

浅野豊美(国際政治)
小倉紀蔵(韓国思想)
西成彦(比較文学)

著者

東郷和彦(国際政治・元外交官)
外村大(近現代史)
中山大将(北東アジア地域研究)
四方田犬彦(比較文学)
熊木勉(朝鮮現代文学)
中川成美(日本近現代文学)
加納実紀代(女性史研究)
藤井貞和(日本文学・詩人)
熊谷奈緒子(国際関係論)
上野千鶴子(社会学)
天江喜久(台湾近現代史)
金哲(東アジア近現代文学)

目次抜粋

外交官の目で読む『帝国の慰安婦』
なぜ(数)を問うのか?
慰安婦をめぐる歴史研究を深めるために
国家と性
戦時性暴力とミソジニー
『帝国の慰安婦』のポストコロニアル리즘
慰安婦問題における人間と歴史
抵抗と絶望

図書出版クレイン 〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-32-9 <http://cranebook.net>

ご注文書	書名	対話のために 「帝国の慰安婦」という問いをひらく		ISBN 978-4-906681-48-8	
		(送料別) 1900円(税別)			
		クレイン	TEL 0422-28-7780	FAX 0422-28-7781	串